

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2023年7月18日
明治大学の所属学部・研究科	政治経済(学部/ 学科/ 研究科/ 専攻等)
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2023年6月22日
明治大学卒業予定年月	2025年3月
留学先大学について	
留学先国	イギリス
留学先大学	イーストアングリア大学(日本語名) University of East Anglia(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2022年9月～2023年6月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): 国際開発学部 (現地言語での名称): School of international development <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例: 1 学期/4 月上旬～7 月下旬、 2 学期/9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9月下旬～12月中旬 2 学期: 1月下旬～3月中旬 3 学期: 4月中旬～6月上旬 4 学期: ~
学生数	14257
創立年	1963

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (1スターリングポンド= 181円)	日本円	備考
授業料	0	0円	交換留学のためなし
宿舍費	6241	1129621円	
食費	2340	423540円	
図書費	0	0円	教材はすべて図書館もしくはオンライン上で配布された
学用品費	0	0円	
携帯・インターネット費	81	14661円	毎月9ポンドでSIMカード契約
現地交通費	500	90500円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	1080	195480円	
被服費	160	28960円	
医療費	0	0円	
保険費	150	107415+27150円	形態: 大学指定の保険+イギリス NHS の加入料
渡航旅費	1491	269871円	
ビザ申請費	200	36200円	
雑費	0	0円	
その他		円	
その他		円	
合計	12243	2323398円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:成田空港 目的地:ロンドン・ヒースロー空港 経由地:チューリッヒ空港	
復路 出発地:ロンドン・ヒースロー空港 目的地:成田空港 経由地:ウィーン空港	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: スイス航空 料金: 269871	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: 料金: 復路 航空会社: 料金: ∴合計:	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: eDreams)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: university village) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

渡航3か月前くらいに大学から寮の案内が送られてくる。1年生、交換留学生が優先で寮を決めることができるが早い者勝ちなのでできるだけ早く応募することをおすすめする。

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私のいた寮はキャンパスから歩いて15分ほどで、他の寮に比べて比較的静かで過ごしやすい雰囲気だった。メリットは自分一人の時間を持てる事、料金が安いことである。デメリットを挙げるなら友人が他の寮に住んでいる場合呼びづらいこと、朝一番の授業があるときに急がなくてはいけないことだ。個人的に自分の部屋は落ち着ける場所にしかかったのでビレッジに満足している。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

なし
あり(治療を受けた場所:)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし
あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

ノーリッチは基本的にとても安全な地域なので日本と同じくらい治安がよかった。ただ、大学内のクラブや深夜に街にいくとたまたま薬物を吸っている人がいるのでそういった人たちには近づかないように注意した。犯罪に巻き込まれたことは無い。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

基本的に寮、大学内、図書館などはすべて同じ WIFI でつながっているため不便に感じたことは無く、速度も良好だった。街に出かけるときや旅行の時のためにビザ申請の際にもらった SIM カードを月9ポンドで契約して利用していた。

5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

基本的にクレジットカードを使用していた。また現地で銀行口座も開設し、親から定期的を送金してもらっていた。どうしても現金が必要な場面や、卓球の大会に出場したときの出場料を支払う時などに口座が必要だった。

6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

日本の爪切り、使い慣れた薬(葛根湯、正露丸などをもっと持っていきべきだった)、化粧水(イギリスにはあまりない)、日本食など

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
120 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 所属する school の授業を3分の2取らなければいけない。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Shared futures	共有された未来
科目設置学部・研究科	School of international development
履修期間	2022/9-2022/12
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	週一回のレクチャー+セミナー (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 110 分が 1 回
担当教授	
授業内容	国際開発学を学ぶための基礎知識をレクチャー方式で学ぶ。世界銀行、IMF、セクターごとの役割など今後の授業についていくために必要不可欠な知識をたくさん学んだ。
試験・課題など	毎週平均20ページくらいのリーディング課題が出る。 学期中に一度セミナー内で発表する。 学期末に授業に関する質問10問に24時間以内で答えるテストがある。各質問150~250字程度で書き、その中の一つの質問を自分で選び400字程度で詳しく書く。
感想を自由記入	1学期目に受けたのは国際開発学部の一年生が必ず受ける3つの授業で、これはそのうちの一つ。開発学の知識を一から様々な講師がレクチャー方式で教えてくれる。3週間に一回セミナーがあり、事前に知らされた質問をもとにディスカッションをする。学期中に一度セミナーで発表する機会がある。私は多国籍企業についてタイの例をもとにパワーポイントを作って発表した。事前知識が無くても努力次第で十分ついていけるので履修してよかったと感じている。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Perspectives on global development		グローバルな発展における様々な価値観	
科目設置学部・研究科	School of international development		
履修期間	2022/9-2022/12		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	週一回のレクチャー+セミナー(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に110分が1回		
担当教授			
授業内容	開発学が生まれた背景、歴史、大切な考え方など幅広いことを学ぶ。先進国、途上国はどのように区別されているのか、なぜ格差が生まれるのか、など難しい疑問について深く考える機会が多かった。先住民族や気候変動などのトピックにも関連していた。		
試験・課題など	セミナーでグループになって授業の要約をし、プレゼンする課題があった。学期末の課題は10個ほどある授業のトピックから2つ選びそれぞれ800~1000字程度で要約するものだった。		
感想を自由記入	正解がない問いに対して深く考えなくてはいけないため苦労したが、その分自分の考え方がアップデートされた気がする。自分が当たり前だと思っていることでもなぜだろう、と考えること、疑ってみることの重要性を学んだ。課題については3つの授業の中で一番簡単だった。グループプレゼンテーションは準備が大変だったが現地の生徒と関わるいい機会になった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
Big questions for people and the planet		人びとと地球のための大きな問い	
科目設置学部・研究科	School of international development		
履修期間	2022/9-2022/12		
単位数	20		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	週一回のレクチャー+セミナー(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に110分が1回		
担当教授			
授業内容	開発学に関する3つの問いに関してそれぞれ4週間ずつ取り組む。一つ目が「なぜ人々の生活水準は違うのか?」という問いで、主に経済学の視点から、国と国また同じ国にいる個人間でもどうして格差が生まれるのか、について講義を受けた。2つ目が「産業発展は持続的なのか?」についてで、地球温暖化、気候変動のテーマを中心に講義を受けた。最後が「どのように平和と治安を維持するのか?」という問いであった。紛争や戦争が起こる理由、それらを防ぐ方法について学んだ。		
試験・課題など	学期末に3つの問から一つ選び2000字のエッセイを書いた。自分で例となる国を見つけてアカデミックに論じることを意識した。		
感想を自由記入	1学期に受けた3つの中で一番面白い授業だった。特に国と国の間でここまで経済格差が出る理由について歴史、地理、政治、さらには運まで様々な要因を知ることができたのがよかった。課題は一番苦労した。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to economics of development	開発経済学入門
科目設置学部・研究科	School of international development
履修期間	2023/1-2023/6
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	毎週110分のレクチャーが一回+1時間のセミナーが一回(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に計170 分が1回
担当教授	Paul Clist, Maria Isabera Santana
授業内容	経済学の観点から開発学を学ぶ。基本的に明治大学の1年生で習ったマクロ経済学と重なる内容が多かった。発展途上国の例を挙げながら授業が進んでいったのでわかりやすかった。セミナーでは毎回事前にリーディングをしてその内容についてディスカッションをした。
試験・課題など	学期末に24時間で行うテストがあった。試験は10問で、それぞれ200字程度で書いた。内容は授業で行ったことを理解できていれば解けるものだった。
感想を自由記入	事前知識があったので比較的やりやすいと感じる授業だった。ただ他の授業に比べてアウトプットの機会が多かったためネイティブに圧倒されることも多々あった。経済学なので数学を使う場面も多少あったが、毎週任意で数学知識に関して教えてくれるワークショップが開催されていたので事前知識が無い人でも履修できる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Latin American development	ラテンアメリカ地域の発展
科目設置学部・研究科	School of international development
履修期間	2023/1-2023/6
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー、セミナー(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に60分が2回
担当教授	
授業内容	ラテンアメリカの発展について。植民地支配から始まり、先住民、政治、経済、資源についてなど幅広いレクチャーがあった。教師陣がすべてラテンアメリカ出身であり、それぞれの国について豊富な知識を教えてくれる。
試験・課題など	評価は、50%がグループプレゼン、50%が2500字のエッセイで決まる。グループプレゼンは学期の初めにメンバーと国を一つ割り当てられ、その国の直近20年の発展の歴史について発表する。
感想を自由記入	Level5(現地の2年生用)の授業であり、より専門的な内容について扱ったので難しかったがその分面白かった。学期の初めはレクチャーで知識のインプットをし、授業の終わりに行くにつれて得た知識をもとにプレゼンやエッセイに取り組む、という授業形態が良かった。プレゼンのメンバーが私を含めて2人しかいなかったがとても協力的な方で非常に良いプレゼンができた。英語でプレゼンをし、先生の質問にもしっかり答えられたので自分の自信につながった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Sub-Saharan African development	サハラ砂漠以南アフリカの発展
科目設置学部・研究科	School of international development
履修期間	2023/1-2023/6
単位数	20
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	レクチャー、セミナー、スクリーニング(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に110分が3回
担当教授	Ben Jones
授業内容	サハラ砂漠より南のアフリカ地域について幅広く学んだ。教授が人類学を専門としている方でありその観点からの講義が多かった。レクチャー、セミナーのほかにスクリーニングがあり、1本の映画を半分に分けて2週間ごとに鑑賞した。参加は任意だがアフリカに関するいろいろな映画を見ることができて興味深かった。
試験・課題など	学期中一度セミナーで発表がある。評価は2000字のエッセイ50%、テスト50%である。テストはいくつか質問があるうちの2問選んでそれぞれ800~1200字で書くもの。24時間。
感想を自由記入	3月にケニアに行くことがわかっていたので履修を決めた。教授の言葉選びが難しくなかなか理解するのに戸惑ったこともあったが、全体的にとっても面白い講義ばかりだった。課題の量が多く毎週大変だったので、アフリカに興味がない人は厳しいかもしれない。



卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他: 就職活動を始める予定

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	TOEIC の勉強
	4月～7月	留学相談の利用、ACE 履修
	8月～9月	TOEFL、IELTS 受験
	10月～12月	留学計画書、面接対策
留学開始年	1月～3月	留学先決定、IELTS 再受験
	4月～7月	航空券購入、情報収集
	8月～9月	ビザ申請、渡航準備、渡航
	10月～12月	1学期目、期末試験、旅行
留学/帰国年	1月～3月	旅行、2学期目開始
	4月～7月	海外ボランティア、最後の試験、帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

・UEA を選んだ理由 国際協力に興味があり、開発学が有名なこの大学を選びました。また、自然豊かでゆったりと時間が流れるキャンパスとノーリッチの街にも魅力を感じました。

・留学生活全般について 書くことが多いので、日常生活、勉強、課外活動の三つに分けて書きたいと思います。

日常生活・・・一人暮らしが初めてだったので最初は家事を一人でやらなくてはいけない事に苦労しました。イギリスは外食が高いので寮から歩いて20分くらいの ALDI というスーパーでいつも買い物をして自炊をしていました。フラットメイトは静かな人が多く、挨拶したりたまに世間話をしたりする程度で、お互い過度に干渉しあうことはない雰囲気でした。大学内にクラブやバーがあり、クラブは毎週火、水、土と開催されるので遊びたいときはいつでも遊べる環境ではありません。一方図書館は24時間空いているので勉強に集中したい人はそれでもできますし、まさに自分のやりたいことができる環境であると感じました。

勉強面・・・授業のスタイルや評価方法が日本と違うので最初は大変でした。イギリスの大学は授業時間が少ない代わりにリーディングが多かったり、自分で学ぶ時間が多いです。そのため全く授業が無い日が週2回あったりしたが1学期目は忙しかったです。しかし慣れてくれば日本の大学よりも自由に使える時間は多いと思います。もちろんほとんどがネイティブの英語話者のためディスカッションについていく事だったり、24時間のテストなどは大変です。英語力もそうですが、渡航前に少しでいいので英語でのアカデミックなエッセイの書き方などについて勉強しておくのと試験期間楽になると思います。アカデミックな知識は帰国後のゼミなどでも活躍すると思います。

課外活動・・・私の場合はずっと卓球をやっていたので卓球部に所属しました。練習が週に3回(自由参加です)、試合も週に1～2回ありました。日本人が自分一人しかいない環境に身を置けたことでとても良い経験になりました。英語力がネイティブ並みでなくてもスポーツや共通の趣味があれば言語を超えて仲良くなれます。そのため、現地では何かしらのソサエティ(サークル)や部活に入ることをおすすめします。他の課外活動でいうと長期休みに workaway というサイトを使ってフランスの田舎でホームステイをしたり、ケニアに行って卓球を教えるボランティアをしました。どちらも学生で時間がある今でしかできないことなので行ってよかったと思っています！課外活動で大学の外に出てみるとその土地に暮らしている人々のリアルな生活を見ることができるのでおすすめです。

留学を志している方へのアドバイス・・・留学という大きな決断をするのはとても不安だと思います。私も留学先を決めるまでも、決まってからもずっと不安でした。でも今留学を終えてみて挑戦して良かったと思いますし、ここで挑戦できたからこれからもできる、という自信にもつながりました。留学に行くことができたなら、ぜひ今までやったことのない何かをやってみてください！留学は周りの環境が一気に変わり新しいことに挑戦する絶好の機会だと思っています。語学を伸ばすことだけが留学ではないと思うので、何か留学先でしかできない特別な経験ができると最高の思い出になると思います！最後に、UEA のことで聞きたいことがある方、留学に興味がある方などいましたら気軽に連絡してください。お待ちしております！

